錦織、悠々16強

4回戦はフェデラー

テニス　全豪オープン　20日

第5日はメルボルン・パークで男子シングルス3回戦があり、第5シードの錦織圭（日清食品）は世界ランキング121位のルカシュ・ラツコ（スロバキア）を6－4、6－4、6－4で退け、6年連続で16強入り。4回戦は第17シードのロジャー・フェデラー（スイス）と対戦する。

第1シードのアンディ・マリー（英）は、9年連続で4回戦進出。第4シードのスタン・バブリンカ（スイス）、第12シードのジョーウィルフリード・ツォンガ（仏）も勝ち進んだ。

女子ダブルス2回戦では、穂積絵莉（橋本総業）、加藤未唯（佐川印刷）組が初の16強進出。

ラツコと対戦した錦織＝AFP時事

波乱は無縁 省エネ2時間11分

錦織にとっては、少し物足りなかったかもしれない。45位、72位、121位。今大会は勝ち進むにつれて、相手の世界ランクは落ちた。2時間11分の省エネで完勝。「思い切ったプレーができた。毎試合テニスが良くなってきている」

前日は3連覇を狙った世界2位のジョコビッチ（セルビア）が、世界117位に敗れる波乱が起きていた。そんな格下と戦う難しさも、27歳には無縁だ。錦織は、2013年の全米1回戦で世界179位のエバンズ（英）に敗れてから、100位以下の選手に負けていない。この日も、予選を勝ち抜いたラツコとは、力の差が歴然だった。

まるで練習のように、左右に揺さぶりながら空きになったコースに、低い弾道の強烈ショットを打ち込む。そうかと思えば、ドロップショットをネット際にぽとり。涼しげな顔で、終始試合の主導権を握った。

次戦へ向けて反省点を挙げるとするなら、集中力か。第2セット、5－2の第8ゲーム。サーブをキープすればセットを取る場面で、ダブルフォールトなどのミスが続き、唯一ブレークされた。フェデラーが相手となれば、一瞬の隙が命取りになる。

過去2勝4敗で、4大大会で戦うのは初。「純粋に楽しみ。もちろん勝たなきゃいけないからタフな相手にはなる。僕にとっては大きな挑戦」。少年時代に憧れたかつてのアイドルに真っ向勝負を挑む。（野田枝里子）

スキー　ジャンプ　W杯　20日

高梨 50勝お預け

伊藤 逆転で2勝目

個人第9戦が山形市のクラレ蔵王シャンツェ（HS103㍍）であり、伊藤有希（土屋ホーム）が今季2勝目を挙げた。通算50勝まであと1勝と迫る高梨沙羅（クラレ）は5位に終わり、3戦連続で優勝を逃した。勢藤優花（北海道メディカルスポーツ専門学校）は今季自己最高の7位に入った。

伊藤は1回目に89・5㍍を飛び102・5点で3位につけると、2回目は94㍍。計213・6点で逆転した。高梨は1回目、追い風を受けて85㍍と飛距離が伸びず、2回目は最長不倒の95㍍で意地を見せたが、届かなかった。

第10戦は21日、同じ蔵王で開催される。

優勝し、笑顔で表彰台へ向かう伊藤有希＝林敏行撮影

札幌であった第7戦（14日）でW杯初勝利を挙げた後、伊藤はこんなことを言っていた。「まぐれと思われたくない」。わずか6日後、0・3㍍差で逃げ切り、再び表彰台の一番高い場所に立った。

優勝したこと自体はうれしいが、ジャンプには不満が残るという。「自分のポジションで助走を滑ることができなかった」。1、2回目とも踏み切りのタイミングも合わなかった。「内容は札幌のほうがよかったのに」と苦笑いする。

初Vの6日後

今季、国内で開催されるW杯は4試合。優勝、2位、優勝と好成績が続く。「会社だったり、応援してくれる方だったり、大会運営の方に恩返しできるのは成績しかない」。最後の1戦も、力を出し切る。

高梨 2回目は最長不倒

板がぶれながらも、高梨は必死で耐えていた。不利な追い風を受けて飛び立った1回目。「（踏み切りの）タイミングが若干遅れた」と振り返る。85㍍と伸びず、10位と苦しいスタートになった。

この日の蔵王は、強い雪が降ったり、風が舞ったりと天候が不安定だった。「それでも、やるべきことに集中できる選手が強いと思う」。2回目は踏み切りのタイミングを修正。最長不倒の95㍍を飛んで、女王の力を見せた。

今季の自己ワースト5位に終わり、通算50勝まで、あと1勝が届きそうで届かない。「助走のスピードは出ているので、乗り方は悪くないと思う。あす、また新しい試合が始まる」。引きずらず、目の前の試合だけに意識を向けている。

高梨沙羅の1本目

高校総体　20日

石川と稲川V

スピードスケート500

スケート・アイスホッケー大会は栃木県で競技が始まった。スピードスケートの500㍍は、男子は石川斗来（北海道・白樺学園）、女子は稲川くるみ（北海道・帯広三条）が優勝した。フィギュアスケートは予選を兼ねたショートプログラムが行われ、女子は世界選手権代表の三原舞依（兵庫・芦屋）が暫定首位に立った。

◇スピードスケート

【男子】500㍍　①石川斗来（北海道・白樺学園）1分13秒10（1回目36秒67、2回目36秒43）②久保（白樺学園）1分13秒18（36秒65、36秒53）③榊原（北海道・帯広南商）1分15秒00（37秒61、37秒39）▽5000㍍　①林莉輝（長野・佐久長聖）7分1秒89②山本（青森・八戸西）7分4秒97③原田（長野・諏訪二葉）7分13秒22

【女子】500㍍　①稲川くるみ（北海道・帯広三条）1分21秒92（1回目40秒95、2回目40秒97）②熊谷（岩手・盛岡工）1分22秒34（41秒08、41秒26）③宇佐見（北海道・帯広農）1分23秒11（41秒53、41秒58）

三原が暫定首位　世界選手権代表の三原が、3回転ルッツからの2連続3回転ジャンプを着氷し、大きなミスなく滑りきって暫定首位に立った。治療を続ける手足の関節炎は寒くなると悪化する。常に動き、関節内部から温めて舞台に立った。去年はこの病気による入院生活を終えたばかりで車いす生活だった。「出られることがうれしい。フリーもノーミスしたい」

▼冬季国体に三原、本郷ら出場　日本体育協会は20日、第72回冬季国体スケート・アイスホッケー競技会（27～31日、長野県）のフィギュアスケート少年女子に全日本選手権3位の三原舞依（神戸ポートアイランドク）と同7位の坂本花織（神戸ク）、同成年女子に同5位の本郷理華（邦和スポーツランド）が出場すると発表した。

「悪童」大逆転負け

暴言・ラケット投げつけ

テニス界きっての「悪童」が、大逆転負けを喫した。

男子シングルスの世界ランキング13位のニック・キリオス（豪）。18日の2回戦で、同89位のアンドレアス・セッピ（イタリア）に6－1、7－6と2セットを先に取りながらも、その後は4－6、2－6、8－10と3セット連続で落とした。ふがいない敗戦に終わった地元選手に、試合後は大ブーイングが浴びせられた。

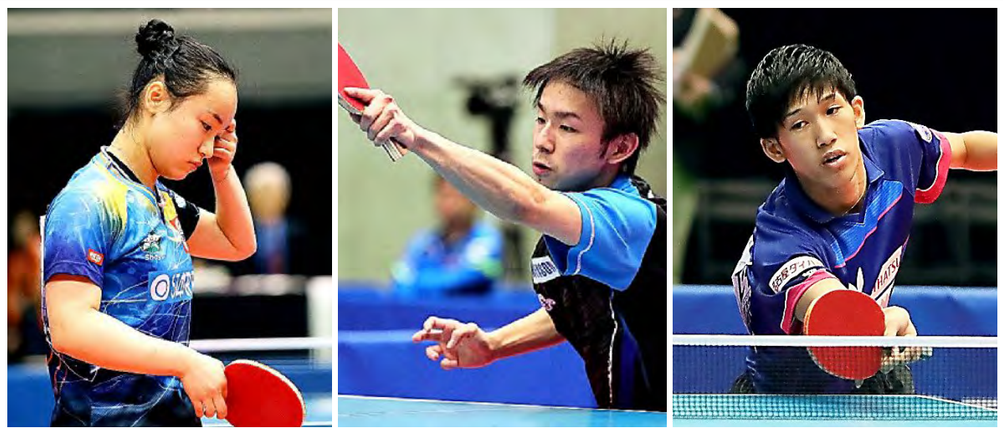
テレビ中継で解説をしていたジョン・マッケンロー氏は「彼は途中で諦めてしまった。私には理解できない」と激しく批判した。これに対して、21歳は「（ブーイングは）いい気分じゃない。体が痛くて仕方なかったんだ」と言い訳した。

ところが、これだけでは終わらなかった。この試合中に暴言を吐き、ラケットを投げつけたキリオスに対して、大会主催者は計5500㌦（約63万円）の罰金を科した。キリオスは過去にも対戦相手への不適切な発言や、無気力プレーで出場停止処分を受けている。（野田枝里子）

卓球　全日本選手権　20日

リオメダリスト、続々敗れる

第5日は東京体育館で男女のシングルスの5、6回戦などがあり、8強が出そろった。女子は4連覇を狙う石川佳純（全農）と、前回準優勝で16歳の平野美宇（エリートアカデミー）は8強入りしたものの、リオデジャネイロ五輪団体銅で16歳の伊藤美誠（スターツ）は、5回戦でゲームカウント2－4で敗れた。男子は、史上最多の9度目の優勝を狙う水谷隼（ビーコン・ラボ）は準々決勝に進んだが、リオ五輪団体銀の丹羽孝希（明大）と吉村真晴（名古屋ダイハツ）は、6回戦で敗れた。



（左から）試合中、浮かない表情を見せる伊藤美誠、必死にボールに食らいつく丹羽孝希、苦戦する吉村真晴＝いずれも日刊スポーツ

伊藤「上を見すぎた」　**丹羽**「ボール入らず」　**吉村**「乗せると怖い」

男子で波乱が続いた。リオ五輪で団体銀メダルに貢献した吉村と丹羽が、ともに全日本優勝の経験があるシングルスで8強に進めず、早々と姿を消した。

2012年王者の吉村は、2年前に準優勝した神巧也（シチズン時計）に2－4で敗退。得点を重ねるごとに体育館中に響き渡る雄たけびを上げる相手に押され、フォアに偏ったラリーで打ち負けた。「ガッツのある選手は流れに乗せると怖いとわかっていたのに」

13年の覇者で、明大4年の丹羽も全日本社会人2連覇中の上田仁（協和発酵キリン）に2－4の敗戦。「普段だったら入るボールが入らないようでは、強い選手に勝てない」と話した。

◇

第6ゲーム、6－4から7連続失点で5回戦敗退。伊藤は「もったいない」と語った。初対戦の大学生を相手に第1ゲームを奪うと、第2ゲームも4－0。だが心に隙が生まれて9－11で落とし、主導権を奪われた。今大会はシングルス一本に絞り、昨年の準決勝で敗れた平野や、女王の石川を想定した練習を重ねた。だが「上を見すぎたかもしれない」と反省した。

企画・制作
朝日新聞社メディアビジネス局

オロナミンC × 朝日新聞

Otsuka 大塚製薬

成人の日は、おめでとうだけじゃない。
ありがとうの日でもあるんだ。

20年分のありがとう新聞

「生んでくれて、ありがとう」「大切に育ててくれて、ありがとう」。2017年1月9日、成人の日の朝、企画に参加した新成人たちの感謝のメッセージをのせた「20年分のありがとう新聞」が、サプライズとともに、両親やお世話になった人のもとに届けられました。

サプライズの様子は右記サイトでご覧になれます。▶http://oronamin-circle.jp/2017seijin

神奈川県
茅ヶ崎市在住の
小金丸凌佳さん

「20歳の思い出は、
両親に届けた感謝の気持ち」

この「20年分のありがとう新聞」企画に参加して、両親に感謝の気持ちを伝えることができて良い思い出になりました。両親には内緒で企画を進めていたので、成功するかどうかドキドキしましたが、とても楽しかったです!!

（当日、本企画を取材する撮影が行われました）両親は撮影に緊張していた様子でしたが、新聞を受けとった時はとてもうれしそうでした。成人式では、振り袖を着て歩いていると、友達の親や近所の方におめでとうと声をかけていただいて、小さな頃から私のことを見守っていてくれたんだなと感じうれしかったです。見ていてくれる人がいることに感謝し、立派な大人になりたいと思いました。

20歳になったことを機会に、将来のことを考えていきたいです。サプライズに喜んでくれた両親をみて、将来親孝行できたらなぁと思いました。

祝！新成人
元気バツグン！
オロナミンC

オロナミンCは、新成人のみなさんのこれからを応援します。